

今回のおはなし



「敗血症」

「水たぼこ」

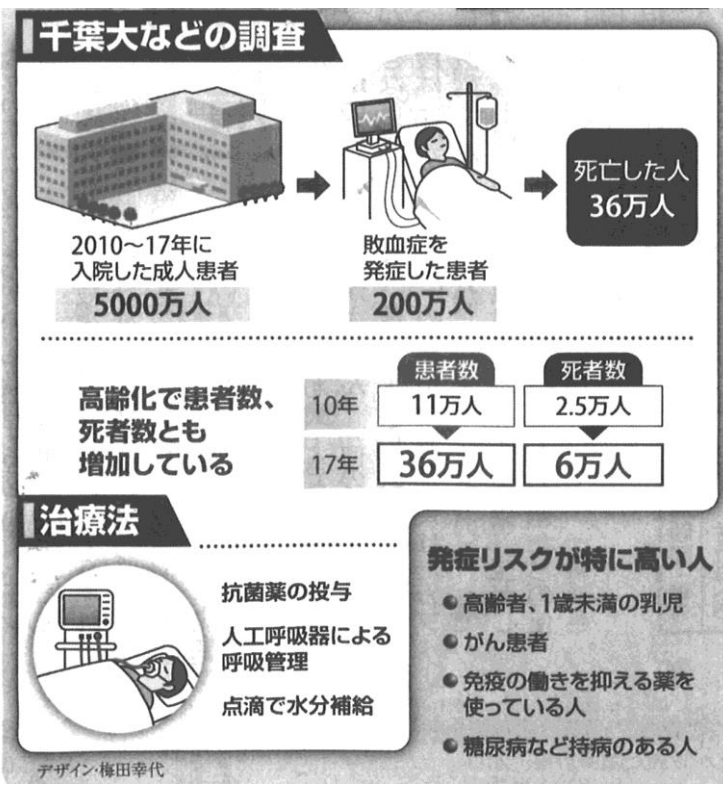
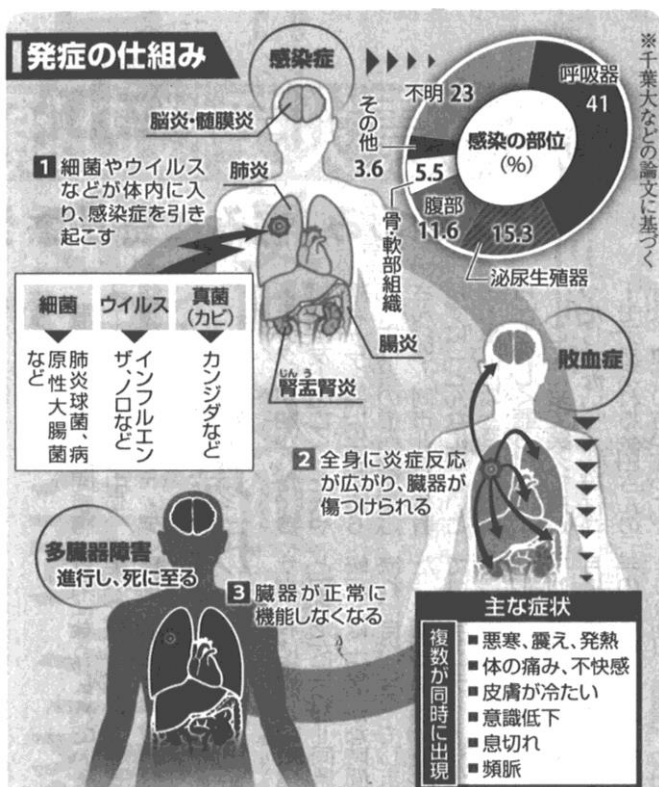


敗血症

感染症きっかけ 臓器不全に 高血圧や糖尿病患者 注意

昨年11月、俳優の渡辺 徹さんが敗血症で亡くなりました。敗血症は、感染症をきっかけに体の様々な臓器が機能しなくなり、全身の状態が急激に悪化する病気です。近年、高齢化に伴って患者数や死亡者数が増えています。

敗血症を引き起こすきっかけとなるのは、細菌、ウイルス、カビなど微生物の感染です。肺炎球菌、病原性大腸菌、インフルエンザウイルスなど、身近な微生物も含まれ、決して特別な病気ではありません。ひとたび発症すると、炎症反応が全身に広がり、複数の臓器が正常に機能しなくなって死に至ります。原因となる感染が起きる体の部位は、肺などの呼吸器、尿路など泌尿生殖器で全体に約半数を占めています。症状は、悪寒、震え、発熱、体の痛み、意識低下、息切れ、頻脈など多様で、これらが同時に起きます。リスクが高いのは、体を守る免疫機能が低い人です。多くは高齢者ですが、1歳未満の子どもが発症するケースもあります。糖尿病などの持病を抱えている人、手術直後の人、がん治療中の人なども注意が必要です。





水タバコにも健康リスク

たばこの煙を水に通して吸う水たばこ。シーシャなどと呼ばれ、取扱店を繁華街などで見かけるようになりました。水に通すことから害が少ないと考える利用者が多いとされますが、世界保健機関（WHO）は、「**有害物質が少ない**」というのは誤解であると指摘しています。1回の喫煙時間が長いため、吸い込む煙の量は多い可能性があり、健康へのリスクが指摘されています。

水たばこは、通常果物などの香りや甘みを付けた葉たばこが使われています。専用の器具を使い、上部に葉たばこを入れて、炭に火をつけて熱します。喫煙者がホースを吸うと、煙が器具の下部に入った水を通り、そこから出た煙を吸う仕組みです。中東などが発祥と言われ、近年は欧米のカフェやバーなどでも若者を中心に喫煙しています。

水たばこの煙は、紙巻タバコと同じように、多くの有害な化学物質が含まれ、肺や心血管の病気、がんなど健康へのリスクがあります。依存性のあるニコチンのほか、発がん物質のベンゼンやホルムアルデヒド、動脈硬化を促進するとされる一酸化炭素（CO）も紙巻たばこと同様に含まれます。

水たばこの1回の喫煙時間は、1時間程度とされています。

水たばこは器具が必要なため、頻繁に吸うことはあまりないかもしれませんが。しかし、たばこを吸ったことがない若い人が好奇心から使用し、他のたばこのゲートウェイ（入口）になる可能性があります。



浦安市が「令和5年度がん検診受診券」を発送しました。
肺がん、大腸がん、前立腺がん、肺炎ウイルス、子宮頸がん、
乳がん等の検診を受けましょう！

（一社）浦安市薬剤師会

〒279-0004 浦安市猫実1-2-5健康センター内

Tel 047-355-6812（月～金：10～15時）

Fax 047-355-6810

メールアドレス yaku_ura_t@urayaku.jp

ホームページ <https://www.urayaku.jp/>